ロータリー：
変化をもたらす

宇都宮ロ ー タリー クラブ会報

R Iテー マ「ロー タリー ：変化をもたらす」
宇都宮ロ ー タリー テーマ「一歩前に進みましょう」
第2550地区ガバナーテーマ「チャレンジ＆イノベー ション」
～挑戦と変革で切り拓く、第2550地区の未来～
2017～2018年度RI会長イアンH. S. ライズリ ー　宇都宮会長 印出井敏英
第2550地区ガバナー 太城敏之　幹事 飯村 悟
例会日 火曜日12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町5-12
事務所 宇都宮市江野町1-12栃木実業ビル2階 TEL 028-666-0555
E-mail u-rc01@silver.plala.or.jp　FAX 028-666-0333

(2017)平成29年11月21日　No. 3222回　2017～2018年度(第18回会報)
会員数104名 出席者数59名 出席率65.6%

ビジター紹介（親睦活動委員会　金子副委員長）

卓話者　第２５５０地区ロータリー財団委員長　森本敬三様
大田原中央ロータリー-クラブ所属
第２５５０地区ロータリー財団部門、補助金承認部門委員長　熊倉学様
宇都宮陽北ロータリークラブ所属

会長挨拶（印出井敏英会長）

皆様、こんにちは。
ちょっと気候のせいか寒くなって皆さん体調不良を起こしているのか、出席率が寂しいのかと思うのですが、どうぞ身体にはくれぐれもお気をつけ下さい。
本日は、ロータリー財団委員会委員長の森本敬三様をお招きしての例会となります。宇都宮ロータリークラブは財団の寄付の目標額を少し下回っています。私もこれから後半力を入れてやりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。皆様、駅東や泉町で１回飲む機会が有りましたら我慢をしていただいて、ちょっとこちらに心遣いをいただければ大変ありがたいなと思います。
それから、本年度のガバナーの方針であります、会員増強ですが、この宇都宮ロータリークラブのパンフレットの新しいものが出来ましたので、どうぞご利用いただきたいと思います。
それからもう一つ。次の次が総会となります。総会は非常に大切な例会となりますので皆様の出席を願いまして私の挨拶とさせて頂きます。

報告事項

ロータリー財団委員長阿部様

皆さん、こんにちは。

ロータリー財団本年度委員、阿部でございます。皆さんには、ロータリー財団月間ということで今月沢山のご寄付をいただきましてありがとうございます。今月今日と来週あちらにテーブルを出させていただいて、皆さんのご寄付をお願いしたいと思っております。現在、タイの消防車をグローバルプラントや先日のサンマ祭りにおいてもそちらの財団からの補助金をいただいていることもありますので、今日は森本委員長よりその詳しい説明をして頂けると思いますので、ぜひ皆さんにはそちらに協賛していただいて、そちらの寄付、そして印出井会長が今年はやるぞ！！と言う一人あたり１５０ドルの目標を達成できるように私も頑張りますのでぜひよろしくお願いいたします。

百年委員会齋藤委員長

百年委員会会長の齋藤です。

先週の土曜日、旭中学校で『職業人に学ぶ会』を行いました。当会からは酒井会員、池田会員、秋元会員と職員の櫻井さんが講演をしてくださいました。すごく評判が良く、酒井さんに関しては笑いもいっぱい取れたと自慢げでした。私は当日泉ヶ丘中学校にて同じく『職業人に学ぶ会』の講話をさせていただきました。今度また、来年の２月に泉ヶ丘中学校で『職業人に学ぶ会』がはいいております。皆様にお声がけすることがあるかもしれませんが、そのときはよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

例会プログラム紹介

プログラム委員松本委員長

皆様、こんにちは。

本日の卓話のご紹介です。１１月はロータリー財団月間ということで、本日は国際ロータリー第２５５０地区ロータリー財団委員長の森本敬三様をお招きしてロータリー財団についてお話いただきます。

森本様について

ご出身は大田原市。現在所属されていらっしゃるのは大田原中央ロータリークラブです。大田原中央ロータリークラブで１９９０年から現在に至るまで、幹事と会長を交互にお努めになるというご活躍でございます。国際ロータリー第２５５０地区の方では２００３年からロータリー財団のポリオプラス委員を始

めとしてポリオプラス運動識字率向上委員長、年次恒久基金委員長、資金推進委員委員長、そして２０１４年から１５年は、第一グループガバナー補佐、２０１５年から１６年はロータリー財団補助金承認委員会の委員長をお努めになり、２０１７年から２０１８年にかけて財団委員長をお努めでございます。それでは森本様、お願いいたします。

森本様

こんにちは。
１１月の財団月間に合わせて卓話者としてお呼びいただきまして誠にありがとうございます。
皆様のお手元に資料をお持ちいたしましたので、その資料に則ってロータリー財団の説明をさせていただきたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。
ロータリー財団が出来てから、１００年経ちました。もう皆さんもご存知のことと思います。１９１７年にアーチ・クランフの提唱により設立された経緯があります。皆様のお手元の資料、開いていただきますとロータリー財団の使命と書かせていただいております。そして世界で良いことをしようということで、書かせていただいております。これがロータリー財団のスローガンでございます。１００年来変わっていないことでございます。財団の資金管理ということで書かせて頂きました。皆様方の寄付によって成り立っているということ、そしてその寄付の種類が楕円の３つでございます。年次基金、恒久基金、指定寄付、この３つが主な収入でございます。これは１２０万余のロータリアンからこの奉仕資金として成り立っているということでございます。そしてこの２ページです。これは、その使われ方、流れでございます。年次基金、上の段度のグラフを見ていただきますと、もし１０００ドルを寄付すると？ということで流れを書かせていただきました。この流れは年次基金は３年間運用します。そしてその３年後に地区に戻ってくるという仕組みになっております。恒久基金は３年間運用をしてその利息を奉仕プログラムに当てるということになります。２０２５年の恒久基金の目標は２０億２５０万円。ニーマルニーゴーという数字をその目標にロータリー財団はしております。これからその資金のプレゼン発表は次年度あるか、下期に多分あると思います。３ページ、４ページ開いて頂きますとこの年次基金、恒久基金のこの使われ方を書かせていただきました。年次基金はシェアシステムによってワールドファンド、国際財団活動資金と地区財団活動資金この２つに分かれるということを書かせていただいております。なによりも、皆様方のご寄付、ただ寄付ということではなくて使うということも考えていただければということを、３ページに赤いアンダーラ

インをひかせていただきました。宇都宮さんは、地区補助金は社会奉仕の一貫としてサンマ祭りを実行されるということでそういう活動の補助金として地区補助金は使われると考えていただければなと思います。５ページ、６ページでございます。この地区補助金の流れを上の段に書かせていただきました。３年前の年次基金、たとえでございますが２４万ドル程しますと、DDF として地区に戻ってくるのはこの半分、１２万ドルでございます。それに、恒久基金の利息運用分、たとえば１万ドルですと、地区に戻ってくるのが１３万ドル、その半分の６５０００ドルは地区補助金として地区内５１クラブの奉仕プログラムの資金として活用されていくことになります。残りの半分は DDF という地区活動資金になります。こういう流れになっております。また、グローバル補助金に関しましては、ここに書かせていただいておりますけど DDF の残りですね。前年度の繰越金が加味されましてグローバル補助金の原資となります。ポリオプラスの寄付、平和センターの寄付、この２つを書かせていただいておりますが、これは国際ロータリーからの要望でございます。そういうわけで宇都宮さんもグローバル補助金を申請されておりまして、消防自動車をタイに送るということで、今申請中かと思います。ですから、このグローバル補助金というものは大変ご理解あると思っております。そして６ページでございますが、ロータリーとはということを大変しつこく書かせていただきました。一番下の二行、ロータリーはクラブ、国際ロータリー、ロータリー財団、これが上手く噛み合って前に進んでいくという仕組みになっております。ロータリー財団単独で動くということではございませんし、国際ロータリーそしてクラブ、この奉仕プロジェクトに則って動いているということになります。今一番国際ロータリーでは６つの重点目標、平和の推進、母子の健康、疾病との戦い、保育の支援、水の衛生、地元経済の成長というこの６つが国際ロータリーの奉仕活動の基本方針になっております。そして、７ページ８ページです。これはポリオ撲滅にご協力下さいと書かせて頂きました。ポリオは１９８５年に国際ロータリーがポリオを撲滅しようということで始まりました。その前の１９８２年か８３年に東南アジアで大変なポリオの流行があったと聞きます。ということにも鑑みて、国際ロータリーは１９８５年にポリオを撲滅しようと言うふうに一大決心をしたのではないかなと見ています。当時わたしは１９８５年はまだロータリアンではありませんでした。その経緯は歴史を紐解くほかないのですが、そういった中で、今年までで３２年間に渡りポリオの撲滅運動をしてきました。ロータリアンのお陰というか、ロータリアンの力強いその思いで、ようやく残す所あと２カ国というところになりました。その２カ国も、ポリオウィルスに関してわたしは専門外なんですが、I 型 II 型 III 型と３種類のウィルスの種類があります。その II 型、III 型は現在でていないということでございます。

今現在の２カ国、アフガニスタンとパキスタン、ここで猛威を奮っているのは。I型のウィルスと聞いております。今年GPEIのHPを見ますと、まだ一桁の発症例、ようやく一桁の発症例しかないということでございますので、本当に国際ロータリーがあと少しと言ったような形に今来ているというところでございます。それでもまだ、この最後のところで踏ん張らなくてはならない。そして資金的にまだ大変費用がかかるというところでロータリー財団ではお一人３０ドルをお願いしています。ポリオ撲滅の寄付ということでお願いしております。GPEIを設立するにあたりまして国際ロータリーはビル・ゲイツ財団をまず巻き込みまして資金を捻出してその運動を広く世界に普及させる為にGPEIという組織を一緒に立ち上げました。立ち上げる事によって世界２５０カ国以上がそのGPEIに加盟することになりました。そして、ポリオ撲滅がひとつになったということになります。これはロータリアンの力とその熱い思いではないかなと思います。この８ページ上段の写真は２０１７年現在のパキスタンのイスラマバード北部のポリオワクチン投与の写真でございます。このように自動小銃を持った人たちに護衛されながらポリオのワクチンを投与するという、こういうことが今現在もあるということをこの現実を知って頂きたいと思い写真を掲載させていただきました。この下は、ご存知の通り、現在戦争状態のシリアでございます。WHOの職員やボランティアの方がポリオワクチンを投与しているということで、ポリオの撲滅は仕組みを作るということで大きく手段を変えています。要は、ポリオワクチンを投与するという仕組み、人であったり又はシステムは国の中で出来上がるということが非常に大きな力を生みまして、ポリオプラスという、そのプラスの部分は皆様たぶん御存知のことと思いますが、百日咳、破傷風、ジフテリア、結核、などの５つの病気の予防接種もポリオワクチン投与の仕組みの中に儲けることが出来るということで、健康状態を改善することができます。また、小さいお子さんの命を救うことが出来るという仕組みがポリオの撲滅の中で生まれてくることができます。現にアフリカのナイジェリアではエボラ出血熱が発生したときに、このポリオの仕組が上手く働きましてパンデミックになることを抑えることが出来たという実例がございます。このようにロータリーではポリオは今最優先課題として国際ロータリーは行っております。このペラＡ３のもの、これは今年国際大会で会長、ビル・ゲイツさんを呼んで講演をしている様子。そして財団から４億５千万ドルの寄付を勝ち取る事ができた、この言葉が正しいのかはわかりませんが、ロータリー財団の力でございます。このように力を入れております。そしてこの資金は今非常にかかるといいましたが、新しい資金はサーベランス、監視活動ですね、野生株のポリオウィルスがいないかというのを下水または排水口でチェックをしていく、そして３年間だと思いましたが、サーベランスを行

い、WHOに出ていないという証明をいただく、それで初めてロータリーはポリオウィルスに勝ったと言えるわけです。このように年間４億人以上の子供への接種などに役立てられるということでございます。ポリオワクチンは、生ワクチンによるワクチン接種による感染発症ということがあるそうです。現在は不活化ワクチンという発症しないワクチンを使っている。そういう新しいワクチンを投与するということでございます。これが資料に書かれている４億人以上の子供たちへの投与ということになります。そして免疫を持った子供たちが増えていくということになります。世界各国では３回から４回のポリオワクチンの投与をするのが普通だそうです。現在の日本は２回の接種で、ボーダーレスで国境を超えた危機があるということで厚生労働省で言われています。ポリオというのは３２年間続けられておりまして、いつまでに終わるんだと言う話もありますが、多分終わりはもうじきあと少しではないかと現状で言われています。その野生株の削減ということで、何卒ポリオ撲滅についてご理解を賜りたいと思います。
続きまして、９ページ、１０ページでございます。これは先程のワールドファンドというお話をさせていただきましてその使い方のひとつ、ほんの一例でございます。シェルターハウスというイギリスにあるNGOでございます。これは、一つの箱に人道支援的なものを入れ、世界で緊急援助を必要とするところに送るということです。東日本大震災の折、日本にも１７００個近くのシェルターボックスが日本にも届いております。このロータリーはこういうところにも人道支援ということで資金を提供しております。また、１０ページは平和の為のロータリアン行動グループと書かせていただきました。こういうグループも国際ロータリーの中にありましてこれはその中東の状態、シリアまたレバノン、パレスチナ等の地域で人道支援、子供たちの教育支援を行っている団体でございます。２０世紀は戦争の世紀と言われています。２１世紀は戦争のない世界を願う、平和の構築というのはロータリーにとって、今度はポリオに取って代わるくらいに第一優先事項になろうかと思います。それくらい国際ロータリーでは平和構築推進というものに力をいれております。そのための人材育成、人の教育というものに惜しみない努力をしているというのが現在の国際ロータリーの立場でございます。そして平和センターと言うものを作りまして、その人材育成をしています。そういうのが一部ですがワールドファンドを使って行われており、また、ワールドファンドはグローバル補助金にも降りてくるということで皆さんにも返ってくるということになります。資料を開いていただきまして、１１ページ、１２ページです。１１ページはチャールズ皇太子の写真を載せさせていただきました。この写真のチャールズ皇太子の胸にロータリーのバッチがついております。それだけ国際ロータリーの活動というのは高

い評価を得ているというひとつの証では無いかと思います。これも世界１２０余のロータリーの貴重な財源を使って、世界３万８千余のクラブがそれぞれの奉仕活動を行う原資として使われています。２５５０地区では地区補助金が今年度は７万１千ドルございました。これを３３件のプロジェクトに配分させていただいております。３３のプロジェクト、申請クラブは３１クラブでございます。５１クラブのうち約６割のクラブが地区補助金の申請をされているということになります。申請したクラブ全てのクラブに７万１千ドルを配布させていただきました、今年度でございます。このようにロータリー財団に寄付するということは３年後にまた自分たちのプロジェクト、例えば社会奉仕委員会がプロジェクトを企画したときにその原資としてその地区補助金を使用することが可能だということになります。ロータリー財団の資金というのは非常に透明性を持っております。昨年度のアメリカの慈善団体を評価する機関、チャリティーナビゲーターが、ロータリー財団を審査して最高の四つ星を授与されたということでございます。それだけ透明性を持った資金運用をして、ロータリアンに還元しているということです。還元率は全予算の９１％奉仕プロジェクトに還元しているということになります。どうぞご理解賜われればと思います。地区では１５０ドルの年次基金の目標に設定しております。何卒それ以上のご寄付をしていただくと、３年後２０２０年２０２１年度、その年はロータリーにとって１００年です。皆さんがなにかプログラムを組んだ時に冠という、ロータリークラブ１００年という広報活動も合わせると盛り上がっていくのではないかと思います。１２ページはロータリーカードでございます。これは皆さんもうお持ちになってると思いますけれども、これは０．３％がポリオ撲滅にカード会社が寄付してくれる仕組みです。ですから皆さんがカードを使ってそれから０．３％取られるというわけではなく、使っていただいた金額の０．３％をカード会社が財団の基金に入れてくれる仕組みです。ぜひこのカードを使っていただいてお買い物等をしていただければと思います。また、新しくダイナースのカードもあります。これはクラブとして持つことができ、クラブの例会や費用など陣頭分担金などの支払いができます。ぜひご興味のある方はWEBを見ていただければと思います。１３ページ、１４ページは種類と寄付分類でございます。ポールハリスフェローはご存知かと思います。これは毎年１０００ドルの約束をしていただくとポールハリスソサエティーに認証されます。ぜひご一考いただければと思います。現在地区では４０名ほどいらっしゃると思います。寄付分類も書かせていただいており、皆様からの寄付は有効に使わせていただいておりこれはロータリアンの管理委員会で資金を管理しております。ただ管理だけではなく、運用をする上でマイナスを背負うときもあります。先のリーマンショックのときはやはり、資金の運用を株式や債券で運用

しておりましたけれども、大きな損失を蒙りました。そういう失敗もありまして、最後の１５ページはロータリー財団の投資理念に対するステートメントというものを発表させていただいているところです。現在も為替の変動により若干の変動はございます。それを合わせても現在が平穏に資金の運用をさせていただいていると思います。マイロータリーから国際ロータリーの年次報告がダウンロード出来ます。これを見ていただければどのように使われているかが見ることが出来ますのでせひ見ていただければと思います。非常にロータリー財団は透明性のある資金の運用、活用をしていると言えます。あとは、使うのは皆様方。世界１２０万余の会員ロータリアンが地域社会奉仕、または青少年奉仕に使って行くのかなと思います。ぜひ今後ともロータリー財団へのご理科賜りまして、地区ガバナーの方針でもあります１５０ドルをお願いしたいと思います。それが３年後に戻ってまいります。
今日は貴重なお時間をありがとうございました。
りますので、皆様大切にしてください。以上でございます。ありがとうございます。

今日の食事

・豚肉の生姜焼き
・大根と豆腐の煮物
・お新香
・ご飯
・味噌汁

会報委員　増田直樹委員
写　　真　渡辺肇委員